UXデザイン基礎

UXデザインとは？

UXデザインとは、User Experience Designの略で、日本語にすると「ユーザーエクスペリエンスデザイン」となります。
つまり、ユーザーが製品やサービスを利用する際に感じる体験を設計することを指します。

UXデザインのポイント

ユーザー中心
常にユーザーの視点に立ち、何が求められているのかを深く理解することが重要です。

全体像
単に画面のデザインだけでなく、ユーザーが製品やサービスに触れる全ての場面、例えば、購入前の情報収集から、購入後のサポートまで、一連の体験を設計します。

感情
ユーザーがどのような感情を抱くのか、どのような体験をしてほしいのか、といった感情的な側面も考慮します。

なぜUXデザインが重要なのか？

顧客満足度の向上：ユーザーが使いやすい、楽しいと感じれば、製品やサービスに対する満足度も向上します。
リピーターの増加：良い体験をしたユーザーは、再び利用したいという気持ちになります。
競合との差別化：UXデザインを徹底することで、他の製品やサービスとの差別化を図ることができます。

UXデザインの具体的な例

Webサイト：使いやすいナビゲーション、見やすいレイアウト、スムーズな情報検索
スマートフォンアプリ：直感的な操作性、美しいデザイン、パーソナライズされた機能
家電製品：簡単な操作性、安全設計、快適な使用感

UXデザインに関わる仕事

UXデザイナー：UXデザイン全般を担当します。
UIデザイナー：ユーザーインターフェースのデザインを担当します。
情報アーキテクト：情報構造を設計します。
インタラクションデザイナー：ユーザーとのインタラクションを設計します。

UXデザインの流れ

リサーチ
ユーザーのニーズや行動を調査します。

ペルソナの作成
代表的なユーザー像を作成し、設計の指針とします。

ワイヤーフレーム作成
画面の骨組みを設計します。

プロトタイプ作成
動く画面を作成し、実際に操作してみます。

ユーザビリティテスト
実際にユーザーに試してもらい、改善点を洗い出します。

デザイン
視覚的なデザインを施します。

実装
システムに組み込みます。

UIとUXの違い

UIとUXは、よく一緒に使われる言葉ですが、それぞれ意味が異なります。
簡単に言うと、UIは車の運転席、UXはドライブそのものといったイメージです。

UI（User Interface）とは？

車の運転席に例えると、ハンドル、アクセル、ブレーキ、メーターなど、実際に触れる部分、つまりユーザーがシステムと直接やり取りするインターフェースのことです。

UIデザインは、これらのパーツをどのように配置し、どんなデザインにするか、という設計図を描くようなものです。

・スマートフォンの画面上のボタンやアイコン

・ウェブサイトのメニューやフォーム

・ゲームのコントローラー

UX（User Experience）とは？

ドライブに例えると、目的地までの道のり、車の乗り心地、景色など、運転中に感じる総合的な体験のことです。

UXデザインは、目的地までのルートを設計したり、車の乗り心地を良くしたり、景色を楽しめるような工夫をしたりするようなものです。

・ウェブサイトで目的の情報をスムーズに見つけられたか

・アプリの操作が簡単でストレスを感じなかったか

・ゲームの世界観に没頭できたか

UIとUXの関係性
UIはUXの一部です。UIが使いにくければ、UXも悪くなってしまいます。しかし、UIが良くても、UXが良いとは限りません。
例えば、UIがシンプルで使いやすいウェブサイトでも、コンテンツが面白くなければ、UXは良くないと感じるかもしれません。

ボタン（リンク）の考え方

■ タッチデバイスではボタンの領域を広く取りましょう。

～の要素タグはインライン要素になります。
その為、幅と高さを持たせる為に「 display :block;」を上手く活用してみましょう。

■ポインターが無い場合は、リンク箇所のデザインルールを変えてみましょう。

サイト全体でテキストリンクの箇所は「このデザイン」というルールを統一しリンクが付いていることを解りやすくしてみましょう。

■リンクの付いたバナーデザインはより解りやすく

画像で作るバナーは、よりクリックしたら詳しい説明のページへ飛んでいくと解りやすくデザインしてみましょう。

迷子にさせない導線

■ 画面の面積が少ないデバイスでは、解りやすい導線を組みましょう。

サイト設計の段階で、無駄なリンク無駄なページは排除するのが理想です。
PCの特性、スマートフォンの特性を考えレイアウトを設計してみましょう。

■ 1クリックの動作で、1割のユーザーが離れると言われています。

無駄なページ移動はお客様が離れるだけです。スマートフォンやタブレットで縦に長いページは、
そんなにストレスを感じさせないハズなので、1ページの内容（ストーリー）を充実させましょう。

■ ファーストビューで「最優先のコンテンツ」フッターで「各ページ」へ

ページを開いて最初に見えるのが「目的の内容」⇒深く読み進めて「次への誘導」
そこに興味のない方には「他の興味」へご案内出来るようにしてみましょう。

ページの表示スピード対策「画像」

■ Retinaディスプレイや４Kテレビ等々への対応

Retinaディスプレイの場合解像度が2倍になるので、2倍のサイズの画像を用意し50%のサイズで指定をして

画像は表示させましょう。ただし容量には要注意です！

■ imgとbackground-imageの違いを確認しましょう。

「img」要素はHTMLの文章構造で存在する意味が必要になります。

「background-image」は背景のCSSなので、文法上の意味はありません。上手く使い分けてみましょう。

■Webアイコンや「canvas」「SVG」を上手く取り入れましょう

「jpg,gif,png」以外の画像表示やコンテンツが実装出来る段階に入って来ているので、

上手く取り入れてみましょう。

ただし、実機検証やブラウザ依存には要注意です！

ページの表示スピード対策「プログラム」

■ 動的プログラムは表示スピードを低下させます。

JavaScriptはとても便利！…ですが、プログラムとしてはページの表示速度を低下させます。
ユーザビリティ、アクセシビリティという部分を考えて最低限の利用方法を考えてみましょう。

■ CMS等のテンプレートについて

簡単にWEBサイトを作成してくれるというツールがあったら理想的ですが、便利な分「何かしらの処理」を行われている場合、表示スピードに影響します。良く確認をしてから利用していきましょう。

■ 誤ったプログラムも表示スピードの低下に繋がります。

HTMLやCSSの記述が誤っていてもブラウザは独自解釈して表示してくれます。
これも表示スピードの低下に影響しますし、SEO（検索エンジン対策）にもマイナスの影響がでます。
検証サイト等を利用し、正しく記述できるよう頑張りましょう！

使い易さの追求

■ WEBフォントの利用

日本語に対応したWEBフォントも多く出てきました。無料で使える「源ノ角ゴシック」「源ノ明朝」が国内でも多く広まって来ています。上手く取り入れてみましょう。

■ jQuery の利用

HTML5やCSS3でまだ実現できない動きはまだまだあります。
ページを重くするという問題はありますが、それよりも優先すべき「使い易さの追求」なのであれば、上手くjQueryを取り入れてみましょう。

■ Googleアナリティクスの利用

ページのアクセス数や表示スピード、滞在時間等のデータを取得出来るGoogleアナリティクスは無料で利用することが出来ます。数字から解析しより良いコンテンツを作成しましょう。

まとめ

ユーザー目線です。
相手の気持ちの理解を高めましょう！

UXデザインは、単に見た目を良くするだけでなく、ユーザーがより良い体験ができるように、製品やサービスを設計するプロセスです。
UXデザインを意識することで、より多くの人々に喜ばれる製品やサービスを生み出すことができます。